

浜通り平坦部における リンドウ栽培の実証1年目(広野町)

福島県農業総合センター 生産環境部 福島市駐在

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開へ向けた作付実証(県による実証研究)

研究課題名 既存研究成果を活用したリンドウ栽培の実証

担当者 鈴木洋平、野田正浩、松木伸浩、柳田和弘、根本知明

I 実証技術の解説

1 要旨

避難指示区域において、地域の協力のもと営農再開に向け既存研究成果等を活用した実証栽培を行い、地域の営農再開等を進める。

本試験では、花きによる営農再開を希望する生産者と協力し、現地ほ場(広野町折木、除染方法:深耕)にリンドウを導入し、定植30日後ジベレリン処理により定植年の生育量確保及び定植年からのリンドウ切り花収穫を実証した。

- (1) 定植30日後ジベレリン処理により、リンドウは定植年から旺盛な生育を示した(図1、図2)。
- (2) リンドウは、通常定植翌年からの収穫となるが、定植30日後ジベレリン処理により、中晩生品種のうち「ふくしましおん」、「ふくしまほのか」、「ふくしまかれん」は、出荷規格(60cm、3段以上)を満たす切り花が得られた(表1、図1)。
- (3) 定期的な薬剤散布により、主要病害虫への対応が可能であった(表2)。
- (4) 定点カメラによる調査の結果、ほ場周辺に野生鳥獣の出現が見られた。電気柵(設置高20cm、40cmの2段張り)を設置したほ場内への侵入及びリンドウ株や栽培資材への被害は確認されなかった(データ省略)。
- (5) 本試験でのリンドウ栽培の経費(株在ほ期間5年、苗以外の資材の償却期間5年で算出)は、年間36,307円/a(種苗:12,883円、農薬:2,336円、マルチ、通路シート、支柱、フラワーネット:13,369円、電気柵:5,432円)であった。

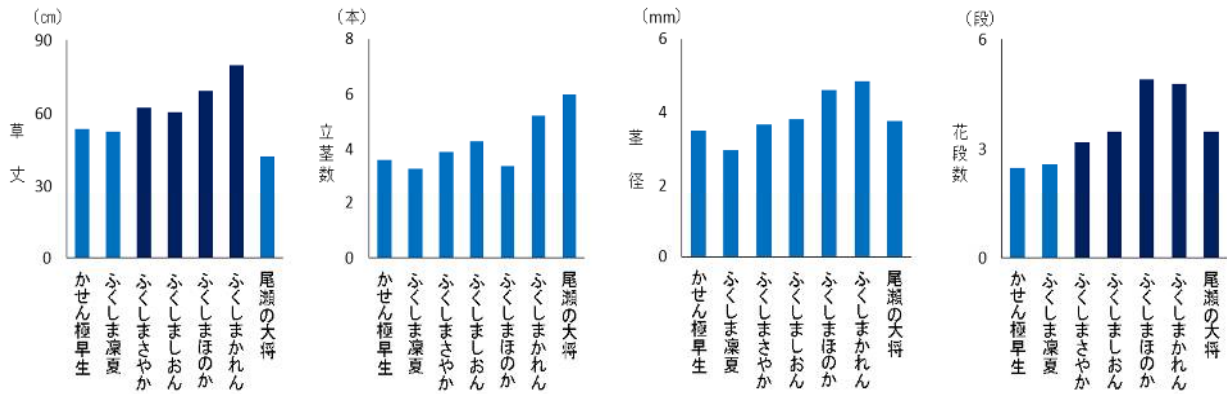
2 期待される効果

- (1) 浜通り平坦部の営農再開に際し、花き(リンドウ)を導入する場合の実践事例として活用できる。
- (2) 深耕除染後のほ場においても、定植年に十分な生育量が確保されたことから、2年目以降の収穫量が期待される。

3 活用上の留意点

- (1) 白絹病等土壌病害の発生を防止するため、栽培予定ほ場(水田)は湛水処理や明きよ等排水対策を実施する。また、定植後の防除は、病害虫の発生状況や気象経過に応じて、適宜実施する。
- (2) 作付け前に必ず土壌分析を実施して施肥を行う。
- (3) 定植年の茎は地際から曲がる場合があり、草丈を確保するためには生育初期の灌水等を実施する。
- (4) 電気柵等により野生鳥獣のほ場への侵入防止策を実施する。

II 具体的データ等



※濃色のバーは、出荷規格(草丈 60 cm以上、花段数3段以上)満たすことを表す

図1 リンドウ定植年の生育(調査日:9月2日、10月28日)

表1 リンドウ定植年の抽苔率と出荷可能見込み本数(10月28日調査)

品種名	白絹病による欠株率 (%)	抽台株率 (%)※1	出荷可能見込み本数 (本/a) ※2	うち秀品率 (%)※3
かせん極早生	6.3	100	-	-
ふくしま凜夏	7.1	99.8	-	-
ふくしまさやか	1.4	100	-	-
ふくしましおん	1.1	97.8	422	48.8
ふくしまほのか	0	98.0	504	61.9
ふくしまかれん	0	100	528	56.3
尾瀬の大将	0	100	0	-

※1 欠株を除いた残存株の抽台率

※2 出荷規格は 60cm・3段以上、※3 秀品率は曲がりの有無で判断

表2 広野町のリンドウ実証ほにおける病害虫の発生状況

病害虫名	被害程度	備考
白絹病	少	6月下旬から一部品種で発生
病害		
葉枯病	無	
灰色かび病	無	
虫害		
アブラムシ類	少	8月下旬から葉裏に発生
コナジラミ類	少	11月上旬以降、一部品種で発生
ネキリムシ	無	定植後、食害により欠株発生
ヨトウムシ類	微	9月中旬、数株で葉の食害散見
オオタバコガ	微	10月中旬、数株で花の食害を確認
リンドウホソハマキ	無	

※達観調査による結果

※薬剤散布は、概ね 10 日に一度の間隔で実施



図2 定植年の「ふくしましおん」のほ場での様子(10月28日)

III その他

1 執筆者 鈴木洋平 2 実施期間 平成 27 年度

3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

- (1) 「定植 30 日後ジベレリン処理によるリンドウの株養成技術」(平成 20 年度普及に移しうる成果)
- (2) 「リンドウ中晩生品種の定植年採花技術」(平成 24 年度参考となる成果)